

車の手入れと経済運転のコツ

車の手入れ	112
車を美しく保つには	112
バッテリーの手入れ	114
プラグ・コードおよび点火プラグの取り扱い	115
パワー・ステアリング液の点検・補給	116
燃料・水分離器の排水方法	117
ムダなく運転するコツ	117
寒冷地での取り扱い	119



車の 手入れ

■車を美しく保つには

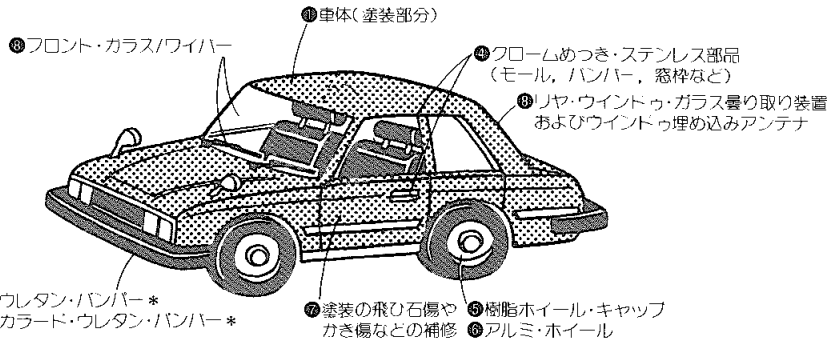
車をいつまでも美しく保つためには、日頃の手入れが必要です。

1. 次のような場合は必ず洗車しましょう。

- 海岸地帯を走行したとき。
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
- コールタール、ばい煙、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき。
- ほこり、泥などで著しくよごれたとき。

2. 次のような場所に長時間駐車しますと、塗装の劣化や、車体、部品の腐食などを早める原因となります。十分注意してください。

- 海岸
- ばい煙、粉じん、鉄粉などの降



下の多い場所。

- 化学物質を排出する工場周辺。
- 樹液、鳥のふん、虫の死がいなどの付着の多い場所。

⑪車体（塗装部分）の手入れ

車体のほこりは柔らかい布か毛ばたきで取りましょう。

▶洗車方法

1. 車体の下回り、足回りを洗います。
2. 十分水をかけながら、スポンジかセーム皮でよごれを洗い落とします。
3. よごれのひどいときは、カー・シャンプーを使用します。

4. 塗装面にはん点が残らないように十分水をふき取ります。

★カー・シャンプーを使用したあとは水で十分洗い流してください。

★エンジン・ルーム内の電気部品に水をかけないように注意してください。エンジン始動不良の原因となります。

★下まわりを洗うときは、ゴム手袋などを着用してください。手にケガをするおそれがあります。

★自動洗車機を使用すると、ときによりブラシの傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。

▶ワックスがけ

1. 1か月に1度または水のはじきが悪くなったときに行なってください。
2. 洗車後、車体の温度が体温以下のときに行なってください。
3. ワックスは次のトヨタ純正品をお使いください。
オートワックス101, 301
オートワックス・スピーディー101
ワックスの中にコンパウンド（みがき粉）がはいっていないものをご使用ください。

②ウレタン・バンパーの手入れ

1. 車体と同じく、洗車したあと専用の黒色ワックスでワックスがけをします。
2. たわしなどの固い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。
3. 塗装用ワックスや泥が付着すると、ウレタンの目地にはいり白くなることがあります。この場合は、水

で洗い落とした後、専用の黒色ワックスを塗布してください。

4. コンパウンド入りワックスや、液状ワックスは使用しないでください。次のトヨタ純正品をお使いください。
ウレタン・バンパー用ブラック・ワックス

エンジン・オイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。

③カラード（車体同色）・ウレタン・バンパーの手入れ

1. 車体と同じく、洗車したあとワックスがけをします。
2. たわしなどの固い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮スポンジなどをご使用ください。

④クロームめっき、ステンレス部品（モール、バンパー、窓枠、ドア・サッシなど）の手入れ

1. 車体と同じく、洗車したあとワッ

クスがけをします。

2. しみなどは、次のトヨタ純正ポリッシュ（みがき粉入りワックス）またはコンパウンドを使用して除去してください。
トヨタ・ポリッシュ・コンパウンド
トヨタ・クローム・ポリッシュ

⑤樹脂ホイール・キャップの手入れ
セーム皮、スポンジなどで十分水をかけながら洗ってください。たわしや、自動洗車機の硬いブラシを使用すると塗色部に傷がつきます。

⑥アルミ・ホイールの手入れ
泥の付着、海水、凍結防止剤等により汚染されると、腐食する恐れがありますので、付着させたままにせず、なるべく早く洗い落としてください。

1. ホイールを洗うときは、中性洗剤を使用してください。
2. ワイヤー・ブラシなど硬い物を使用して洗うと、ホイール面に傷がつきます。セーム皮、スポンジな

どをご使用ください。

3. 洗車後は十分水洗いをし、ワックスがけを行ないましょう。ワックスは次のトヨタ純正品をお使いください。

トヨタ・アルミ・ポリッシュ

4. 錆などを取り除くときは、次のトヨタ純正品をお使いください。

トヨタ・アルミ・クリーナー

アルミ・クリーナーは研磨用ワックスですので、錆などを取り除くときだけに限定してご使用ください。

⑦ 塗装の飛び石傷やかき傷などの補修
これらの傷は腐食の原因となります。
見つけたら早目に補修しましょう。

⑧ ウインドウ・ガラスについて

ワイパーのふきが悪くなった場合は、ガラス・クリーナーで清掃してください。なお、ワイパー・ゴムが古くなっている場合も同様にふきが悪くなりますので最寄りのサービス工場で交換してください。

曇り取り装置付きのリヤ・ウインドウ・ガラス(室内側)の清掃は、断線を防止するため、ぬらした布で熱線にそって、軽くふいてください。ガラス・クリーナーなどは、使用しないでください。

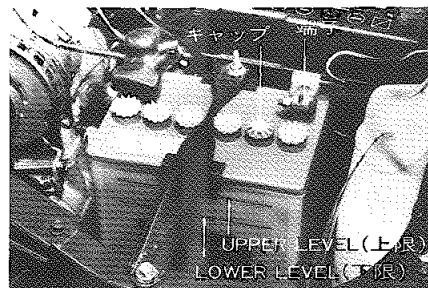
■ バッテリーの手入れ

▶ 端子の手入れ

端子のゆるみ腐食は接触不良の原因にもなります。端子部に白い粉がついているときは、ぬるま湯で清掃した後、グリースを塗ってください。

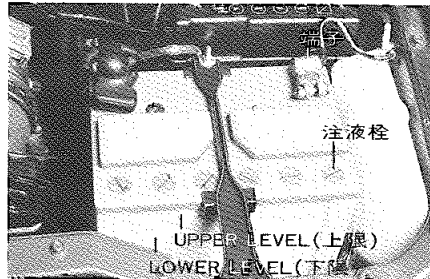
▶ バッテリー液の補給

〈標準バッテリー〉



液面が、UPPER LEVELとLOWER LEVELの間にあればよく、少ないときはUPPER LEVELまで蒸留水を補給してください。

〈メンテナンス・フリー・バッテリー〉
 (バッテリー液の補給期間を延長した
 高性能バッテリー)



バッテリー上面に取り付けられた点検口で、液量の低下と充電状態を点検します。

なお、注液栓はコインまたは大型ドライバーであけることができます。

〈点検口の見方〉

バッテリー・メーカー	良好	液不足	充電不足
GS			
YUASA			
KOBE			
PANASONIC			



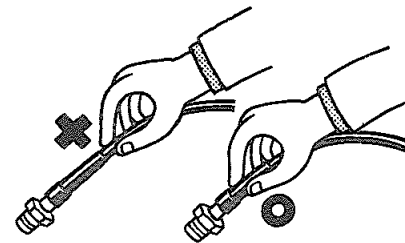
1. バッテリーはショートやスパークをさせたり、タバコの火などの火気を近づけないようにしてください。バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
2. バッテリー液が目や皮ふにつくとその部分がおかされますので十分注意してください。目にはいったときはすぐ多量の水で洗い医師の治療を受けてください。
3. 充電するとき標準バッテリーの場合はキャップをはずし(メンテナンス・フリー・バッテリーは注液栓を確実に締め)通気のよいところで行ってください。
4. バッテリー液をこぼした場合にはその付近を十分に水洗いしてください。

■プラグ・コードおよび点火プラグの取り扱い

ガソリン車

▶プラグ・コードの取り扱い

キャップ部を持って取りはずしてください。

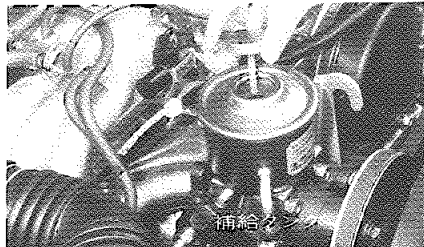


1. コードの中間を持って引っ張ると、断線のおそれがあります。
2. コードを取り付けるときは、点火プラグに確実にはめてください。

▶点火プラグの交換

交換する場合は指定のものをご使用ください。締めすぎに注意してください。裏表紙の「サービス・データ(整備基準値)」をご覧ください。

■ パワー・ステアリング液の点検・補給 *

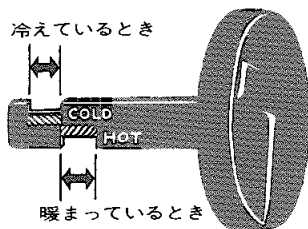


液量を 5,000 km 走行ごとに、補給タンクのゲージで下記の順序にしたがって調べてください。

1. 車を水平な場所に置き、駐車ブレーキ・レバーを引きます。
2. キャップを左に回してはずしゲージ部分を布などできれいにふき、再びもどしてから点検します。

走行直後は、液が高温になっているため、手などが触れると火傷をするおそれがあります。

3. 液が冷えているときは COLD 側の斜線部の範囲内に、暖まっているときは HOT 側の斜線部の範囲内にあるか調べます。



[参考]

COLD：約20℃。エンジン停止後、しばらく放置したときの液温がこれに相当します。

HOT：約70℃。高速走行後の液温がこれに相当します。

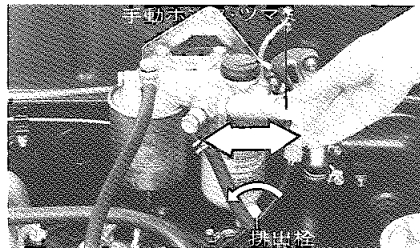
4. 液不足のまま走行すると、異音が発生したりするなど不具合の原因になるおそれがあります。

不足している場合は、トヨタ純正キヤッスル・パワー・ステアリング・フルードを規定量まで補給してください。

★補給は、必ず規定量にしてください。
入れすぎると液漏れになります。
★点検および補給後は、キャップを確実に締め、こぼれた液は必ずふき取ってください。

■燃料・水分離器の排水方法

ディーゼル車



1. 排水栓を左に回します。
2. 手動ポンプを左に回して引き、前後に動かしてフロート（浮子）がフィルターの底に着くまで水を抜きます。
3. 排水処理が完了したら、排出栓および手動ポンプを確実に締め付けてください。

★エンジンを停止してから行なってください。

★排出栓および手動ポンプを締め付ける時、工具は使用しないでください。

★排出栓の下に受け皿を置き、軽油が飛散しないようにしてください。

また、周囲に付着した軽油はきれいにふき取ってください。

ムダなく運転するコツ

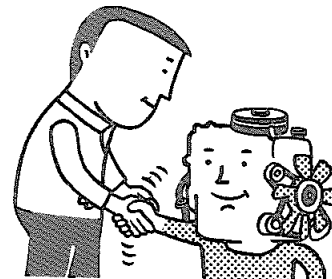
■暖機運転は、長すぎると不経済



水温計の指針が動き出すまで（40～50℃）になればOKです。

23ページの「エンジン始動」の項目を参照してください。

■エンジンをいたわる気持が、長持ちの秘訣



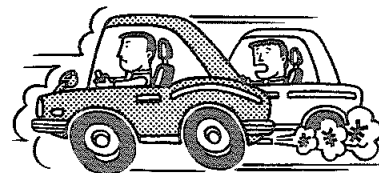
1. （新車時は特に）控え目な運転をしてください。
2. エンジンをオーバーラン（限界回転数超過）させないために、各チェンジ・レバーの位置での速度が次表の数値を越えないように運転してください。

特に高速走行時のシフト・ダウン（ギヤを一段下に落とすとき）はオーバーランに注意してください。

(単位：km/h)

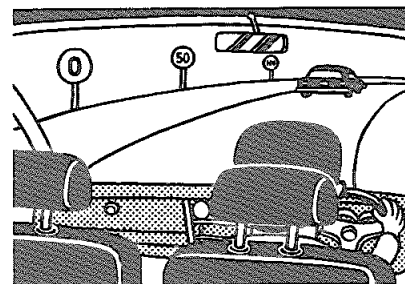
排気量	エンジン型式	トランスミッション型式	1速	2速	3速	4速
1800 (4気筒)	13T-U	4速トランスミッション	45	70	105	/
		3速オートマチック・トランスミッション	55	95	/	/
2000 (4気筒)	21R-U	4速トランスミッション	40	70	105	/
		5速トランスミッション	40	70	110	150
	オーバードライブ付き4速 オートマチック・トランスミッション	55	95	125	/	
	18R-GEU	5速トランスミッション	40	70	110	155
2000 (6気筒)	1G-EU	4速トランスミッション	45	75	115	/
		5速トランスミッション	40	70	105	150
		オーバードライブ付き4速 オートマチック・トランスミッション	50	90	125	/
2800 (6気筒)	5M-EU	オーバードライブ付き4速 オートマチック・トランスミッション	50	90	125	/
2200 (4気筒)	L (ディーゼル)	5速トランスミッション	30	55	85	115
		オーバードライブ付き4速 オートマチック・トランスミッション	45	75	110	/

■不必要な高速運転は燃料のムダ使い

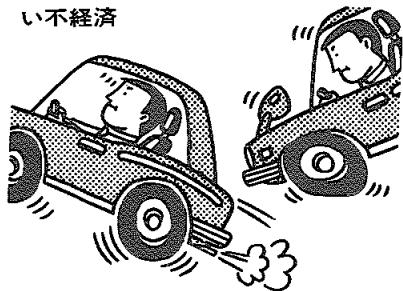


100km/h走行時の燃料消費量は、40km/h走行時の約1.5～1.7倍にもなります。高速道路は80km/h程度で走るのが経済走行といえるでしょう。

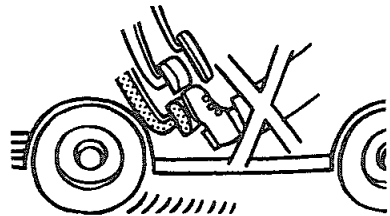
■車間距離はゆったりとって、安全プラス経済運転



■急発進、急ブレーキは危険をとまな
い不経済



■クラッチの適正で確実な操作は、車
を長持ちさせる秘訣です。



ギヤを入れるときは、クラッチ・ペダルを十分踏み込んでから行ないましょう。

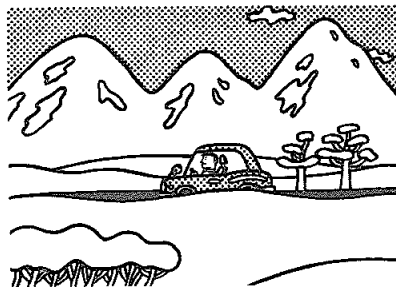
中途半端な踏み方ですと、クラッチはもちろんトランスミッションのギヤなども痛めることになります。

走行中はクラッチ・ペダルに足を乗せないようにしましょう。

寒冷地での 取り扱い

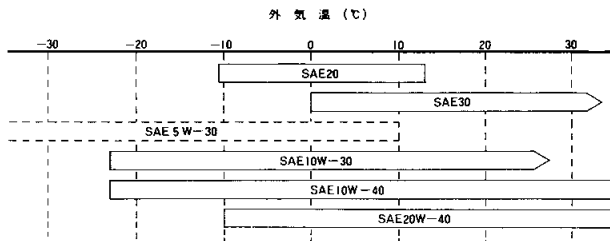
この項目での寒冷地とは、北海道全域および東北、北陸の積雪地帯および、その他の地域を含めた山岳地、スキー場などの局地的な厳寒地区、多雪地区を対象としておりますが、その他の地域においても、冬期の取り扱いの参考としてください。

■安全なウインター・ドライブをする
ために



1. タイヤ・チェーンの準備
2. スノー・タイヤの装着
スノー・タイヤに取り替えるときは、4輪とも交換してください。
3. 凍結防止用ワイパー・ゴムの装着
必ずトヨタ純正品を使用してください。
4. 不凍液の濃度の点検をしてください。
5. ウォッシャー液の濃度をあげてください。
90ページの「ウォッシャー液の量」の項目を参照してください。
6. エンジン・オイルの粘度番号は、車の運転条件によって多少異なりますが、外気温によって次ページの表を参考にして使い分けてください。
7. 寒冷地では冬期シーズン・イン前に燃料タンクの水分を排出することをおすすめします。
また、水分除去剤にはトヨタ純正キヤスミック・エース・ウォーターカットを使用してください。

SAE 粘度分類と使用可能外気温度の関係



■ 走行前の点検

寒冷時には、次の項目を仕業点検のときに実施してください。

1. 車の下をのぞいて、足まわりに付着した氷塊を部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。
2. エンジン始動時にアクセル・ペダルの作動が円滑かどうか確認してください。
3. フロント・ウィンドウの冰雪を除去する際には、ワイパー・ゴムがガラスに凍結していないか確認してください。

■ エンジンの冷えすぎを防ぐには

気温に応じてラジエーター前面にカバーをつけるとエンジンを適温に保つのに効果があります。

■ ドアの凍結時の処置

ドアが凍結した場合は無理にあげようとするとうドアまわりのゴムがはがれたり、き裂するおそれがありますので、湯をかけて氷を溶かしてください。なお、後で水分を十分ふき取っておきましょう。

■ 凍結するおそれのある場合の駐車は寒冷時は駐車ブレーキ・レバーを引いておくとブレーキ装置が凍結するおそれがあります。

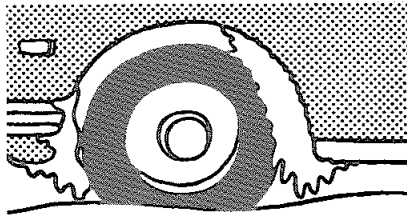
1. チェンジ・レバーの位置を、トランスミッション車はロー（1速）またはリバース（後退）、オートマチック・トランスミッション車はⒺにします。
2. 車が絶対に動くことのないように輪止めをしてください。

■ 乗車時、靴に付着した雪をよく落としてください。

アクセル・ペダル凍結防止に必要です。

■雪道走行時、フェンダー裏側に付着した雪が氷結し次第にたい積して、ハンドルのきれが悪くなる可能性があります。

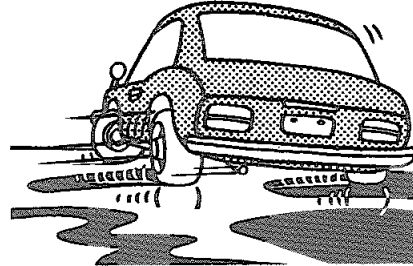
ときどき異常のないことを確認してください。



■深い雪道を走行した後に駐車したときや、吹雪の中に駐車したときは、ブレーキ装置に着氷し、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

走行を再開したら、できるだけ早く、前後の車や道路状況に注意してブレーキの効き具合を確認してください。ブレーキの効きが悪い場合は、ブレーキ・ペダルを踏んで、効きが回復するまで低速で走行してください。

■ぬれた路面、氷雪路面、凍結路面ではスリップに注意



控え目な速度で走り、氷雪路面、凍結路面では、スノー・タイヤ、タイヤ・チェーンを装着しましょう。地域によっては、条例などで使用が義務づけられていますので、シーズン前に準備しましょう。

■ディーゼル車の使用燃料について
軽油は外気温が -10°C 以下になると凍結し、燃料配管の詰まりなどの不具合原因となります。

寒冷地へ行くときは、現地へ着くまでに残量を半分（燃料計目盛の $\frac{1}{2}$ 以下）にしておき、現地に着いたら下表にしたがってできるだけ早く寒冷地用燃料を補給してください。



フェリーを利用して寒冷地へ行くときは、乗船前に燃料を半分にしておき、現地に着いたら寒冷地用燃料を補給してください。

使用限度温度	使用燃料		
	JIS 2号油 軽	JIS 3号油 軽	JIS特3号油 軽
-10°C	○		
* -14.5°C	○	○	
-19°C		○	
* -22°C		○	○
-25°C			○

*は、それぞれの燃料を同じ割合に混合した場合を示します。

ハードトップ

●……標準装備 △……注文装備

グレード	説明	装備品																																					
		10	11	11	13	13	19	20	21	28	29	30	31	34	34	36	36	40	41	41	42	43	54	60	61	61	62	63	64	66	67	73	75	99	109	112	112	116	
1800 (13T-U)	GL			●						●	●		●	●				●										△										△	
	GL			●						●	●		●	●					●									△										△	
2000 (21R-U)	GR			●					●	●		●	●	●	●			●							●		△									●		●	
	GT	●	●		●	●	●	●	●				●	●	●			●									●	△								●		●	
2000 (18R-GEU)	LE			●					●	●	●		●	●	●			●								●	△									●		△	
	LG	●	●		●	●			●	●	●		●	●	●			●								●	△									●		●	
	LGツアリング	●	●		●	●	△	△	●	●	●		●	●	●			●								●	△									●		●	
2000 (1G-EU)	グラnde	●	●		●	●	△	△	●	●	●		△	●	●			●							●	△									●		△	●	
	グラnde	●	●		●	●			●	●	●		△	●	●			●							●	△			△	△						●		△	●
2800 (5M-EU)	グラnde	●	●		●	●			●	●	●		△	●	●			●							●	△			△	△						●		△	●

上記の装備品の取り扱いには本文中に*印をつけて説明してあります。なお装備仕様は変更により車両と一致しない場合があります。

●●整備基準値●●

<各部調整値>

排気量およびエンジン型式		1800 (4 気筒)	2000 (4 気筒)		2000 (6 気筒)	2800 (6 気筒)	2200 (4 気筒)
		13T-U	21R-U	18R-GEU	1G-EU	5M-EU	L (ディーゼル)
Vベルトのたわみ量 (押す力10kg) (mm)	ファン・ベルト	8~13	7~11	6~10	14~21	10~16	10~15
	パワー・ステアリング・ ベルト	12~17	7~11	/	17~24	8~12	10~15
点火プラグの電極すき間 (mm)		0.9~1.2	0.7~1.0	1.0~1.1	0.7~1.0	0.7~1.0	/
アイドル回転数 (rpm)	トランスミッション車	550~700	550~650	750~850	750~850	/	750~850
	オートマチック・ トランスミッション車	700~850	600~700	/	↑	700~800	↑
ブレーキ・ペダル (mm)	遊 び	3~6					
	踏 み 残 り 代	70以上(※)					
クラッチ・ペダルの遊び (mm)		5~15					
ハンドルの遊び (mm)		0~30					
タイヤ残りみぞの深さ (mm)		1.6以上					

※GT, LG, LGツーリング, グランデ車は65mm以上

<各部容量>

▶ エンジン (エンジン・オイル)

排気量	エンジン型式	オイルのみ交換時	オイルと フィルター交換時
1800	13T-U	3.3 (ℓ)	3.8 (ℓ)
2000	21R-U	3.8	4.5
	18R-GEU	3.2	3.6
	1G-EU	3.7	4.3
2800	5M-EU	4.1	4.6
2200	L	4.8	5.8

▶ トランスミッション (ギヤ・オイル)

- 4 速トランスミッション
(フロア・チェンジ) 2.6 ℓ
- 5 速トランスミッション
(フロア・チェンジ) 2.5 ℓ

▶ オートマチック・トランスミッション・オイル

- ガソリン車..... 6.3 ℓ
- ディーゼル車..... 6.5 ℓ

▶ ディファレンシャル(ハイポイド・ギヤ・オイル) (LSD付き車にはハイポイド・ギヤ・オイルLSD)

- 車軸けん架車..... 1.4 ℓ
- 独立けん架車..... 1.2 ℓ

▶ ステアリング・ギヤ・ボックス(ギヤ・オイル)..... 0.4 ℓ

▶ 冷却水

- 1800 (13T-U), 2000 (21R-U)..... 8.0 ℓ
- 2000 (18R-GEU) 9.0 ℓ
- 2000 (1G-EU) 7.4 ℓ
- 2800 (5M-EU) 9.0 ℓ
- 2200 (L) 10.3 ℓ

▶ 燃料タンク.....65 ℓ

▶ パワー・ステアリング(液)..... 0.8 ℓ

INDEX 索引

ア

アーム・レスト（ひじかけ）……………36
 アルミ・ホイール装着車……………99, 101, 113
 アンテナ……………60, 112

イ

ESC（電子制御式横すべり防止装置）……………12, 31
 EFI（電子制御式燃料噴射装置）……………30

ウ

ウオッシャー……………19, 90
 運転方法……………22, 117

エ

エア・コンディショナー……………73
 エレクトロニック・スピード・モニター（音声警告装置）……………15
 エンジン回転計……………8
 エンジン・ヒーター……………25
 エンジン・スイッチ……………22
 エンジン・キー照明……………41
 エンジン始動について……………23, 79
 エンジン・オイル……………83, 89, 119
 エンジン・ルーム……………82, 89

オ

オートマチック・トランスミッション……………26, 90, 105
 オート・ドライブ（自動定速走行装置）……………31
 オーバー・ヒート……………10, 104
 オーバードライブ……………28
 オーバーラン（限界回転数超過）……………118

カ

カソリン……………82
 寒冷地での運転……………119

ク

区間距離計……………8
 グローブ・ボックス（小物入れ）……………43

フラッチ……………82, 89, 119
 フルース・コンピューター（走行情報表示装置）……………44

ケ

計器盤……………6
 けん引……………79, 104

コ

高速運転……………80, 87, 94, 118
 工具とジャッキ……………86, 95
 故障……………101, 103

サ

サン・バイザー（日よけ）……………43
 サン・ルーフ……………57

シ

車種一覧表……………2
 純正部品、製品……………4, 83
 仕業点検……………4, 87
 充電警告灯……………10
 触媒装置……………11, 79
 シート……………32
 シート上下位置調整装置……………34
 仕切り板……………36
 シート・ヘルト……………37
 室内灯……………41
 シガレット・ライター……………42

ス

水温計……………9
 スペア・タイヤ……………96

セ

積算距離計……………8
 前照灯の上向き表示灯……………12
 洗車、外装の手入れ……………112
 整備基準値……………124

ソ

速度計……………8
 装備品……………122

タ

タイミング・ベルト交換警告灯……………14

暖機運転	23, 79, 117
タイヤ	94, 95
タイヤ・チェーン	99

チ

駐車灯スイッチ	21
チェンシ・レバー	26
駐車ブレーキ・レバー	29
駐停車	29, 78
チルト・ステアリング（上下調整式ハンドル）	29
チャイルド・プロテクター（安全施錠装置）	53

テ

電圧計	10
ディーゼル車	14, 24, 82, 103
電動フェンダー・ミラー	30
電動ウィンドウ	54
電磁式ドア施錠装置	53
テンプ	83
	109
	115

ト

時計	40
ドア	52
トランク	56

ネ

燃料計	9
燃料残量警告灯	9
燃料タンク	9, 125
燃料・水分離器	14, 117
燃料タンク・キャップ	55

ハ

排気温警告灯	11, 80, 92
バッテリー	22, 79, 103, 114
ハンドル	29, 80, 92
灰皿	43, 82
排気カス	78, 95
パワー・ステアリング	80, 91, 105, 116

ヒ

非常点滅灯スイッチ	22
ヒーター	69
ヒューズ	105

フ

フタ付きコンソール・ボックス（小物入れ）	43
ブレーキ警告灯	12
フロント・シート	32
フロント・スポット・ライト	42
ブレーキ	80, 93, 119
ブレーキ液	82, 89
不凍液	119
ファン・ヘルム	91, 104

ヘ

ヘッド・レスト	35
---------	----

ホ

方向指示レバー	18
ボンネット	55
保安炎筒	102

ミ

ミラー	30
-----	----

ユ

油圧計	11
油圧警告灯	11

ヨ

予熱表示灯	14, 24
-------	--------

ラ

ライト・スイッチ	18
ランバー・サポート（腰部当たり調整装置）	34
ラジオ	60
ランプ類	93

リ

リヤ・ワイパー	20
リヤ・ウィンドウ・ガラス曇り取りスイッチ	20
リクライニング（背もたれ調整装置）	33, 36
リヤ・シート	36

レ

冷却水	13, 91
-----	--------

ワ

ワイパー/ウォッシャー・スイッチ	19
------------------	----



▶ エンジン

〈ガソリン車〉

キャスル・モーター・オイル・クリーンロイヤル
(API基準SE)

キャスル・モーター・オイル・クリーン
ゴールドデン (API基準SD)

キャスル・モーター・オイル・クリーンスーパー
(API基準SD)

キャスル・モーター・オイル・クリーンカスタム
(API基準SD)

〈ディーゼル車〉

キャスル・ディーゼラックス・スペシャル
(API基準CC)

キャスル・ディーゼラックス (API基準CC)

キャスル・ディーゼラックス S-3
(API基準CD)

▶ エンジン・オイル添加剤

キャスミック・エース・モーター・オイル・
アディティブ・クリーン

▶ マニュアル・トランスミッション

キャスル・ギヤ・オイル (API基準GL-3)

キャスルMGギヤ・オイル (API基準GL-3)

▶ ディファレンシャル

〈独立けん架車を除く〉

キャスル・ハイポイド・ギヤ・オイル S
(API基準GL-5)

〈独立けん架車〉

キャスル・ハイポイド・ギヤ・オイル S X
(API基準GL-5)

〈L.S.D付き車〉

キャスル・ハイポイド・ギヤ・オイルLSD
(API基準GL-5)

▶ ステアリング・ギヤ・ボックス

キャスル・ギヤ・オイル (API基準GL-3)

▶ パワー・ステアリング

キャスル・パワー・ステアリング・フルード

▶ オートマチック・トランスミッション

キャスル・オート・フルード・スペシャル

▶ ホイール・ベアリング

キャスルMPグリース

▶ 不凍液

キャスル・ロング・ライフ・クーラント

▶ ブレーキ

ブレーキ・フルード 2400 G (DOT -3)

▶ ウインドウ・ウォッシャー

ウインドウ・ウォッシャー・フルード

▶ 水分除去剤

キャスミック・エース・ウォーターカット

〈ディーゼル車〉

キャスミック・エース・ウォーターカット D

→ 万にそなえて

安心のため自賠責保険(強制保険)のほかに任意自動車保険にも加入しましょう。

ご加入の際はトヨタ販売店にご相談ください。

→ 不幸にして事故が起きたら!

あわてずに次の処置をしましょう。

① 続発事故の防止

② 負傷者の救護

③ 警察への届け出

以上道交法第72条

④ 相手方の確認とメモ

(氏名、住所、電話番号)

⑤ ご購入された販売店と保険会社

への連絡